

# 平成23年度第2回政策会議

日時 平成23年6月14日（火）9:45～10:40  
会場 市長会議室  
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長  
渡辺企画部長 上戸総務部長 大竹財務部長

## 議 題 新函館市都市計画マスタープランの素案について

◎対 応 荒井都市建設部長，戸内次長，山田都市計画課長，久保田主査

### ◆ 議題の趣旨 ◆

本市を取り巻く環境の変化などにもない，都市計画区域外である旧4町村地区を含む全市域を対象として，コンパクトなまちの形成を図ることとした，新たな都市計画マスタープランの素案を作成したことから，その内容について協議を行いました。

### ◆ 協議の結果 ◆

新函館市都市計画マスタープランの素案については，了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■ 荒井都市建設部長

現在の都市計画マスタープランは，平成10年3月に策定したものだが，本市を取り巻く環境の変化などにもない，新たな計画を作成するため，平成20年から市民アンケート，町会連合会とのワークショップ，市民懇話会の開催，関係部局との協議などを行い，このたび素案としてとりまとめた。素案について了承をいただければ，都市計画審議会に諮ったうえで案をとりまとめ，年内を目途に決定したい。新プランの重点項目は，コンパクトなまちづくりを打ち出したことと，都市計画区域外である旧4町村地区を含む全市域を対象としたことになる。詳細については，都市計画課長から説明する。

#### ■ 山田都市計画課長

新プランは，都市計画の基本的な方針として作成した。目標年次は平成42（2030）年で，市内全域を対象としている。

都市の概況と課題としては，人口の減少や少子高齢化の進行への対応，公共交通の充実，公共施設の街なかへの誘導，中心市街地の再生などがあることから，まちづくりの目標を「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」「快適・安全なまちづくり」「市街地と農漁村地域が共生するまちづくり」「美しくうるおいあふれるまちづくり」「経済活動を支えるまちづくり」とした。

また、まちづくりの方針として、コンパクトなまちづくりの推進、住宅や商業系など土地利用の方針、道路や公共交通など都市施設整備の方針、都市防災と景観形成からなる都市環境の方針を示すこととしたい。

コンパクトなまちづくりの方針としては、市街地の拡大を抑制することを基本とし、市内5つの商業・業務拠点と観光拠点などに都市機能を集約するとともに公共交通を充実させるほか、低密度化する市街地への対応を記載し、財政規模に見合った都市経営と歩いて暮らせるまちの実現を目指すこととした。

■工藤市長

前回のプランとの違いはどこか。時代が変わっても、市内全域を整備するという方針は変わらないのか。

■荒井都市建設部長

以前のプランでは、市街地を拡大するという方向性があったが、市街地は拡大しないとした部分が根本的に異なっている。

■工藤市長

地区別の方針を打ち出しているが、町会など地域に入って公聴会のようなことは行ったのか。

■荒井都市建設部長

4 地域をはじめ、町会連合会とのワークショップなどを開催しており、住民意見を反映することを基本として作成している。

■工藤市長

コンパクトなまちづくりをうたっているが、現実はそうはなっていない。市民が見た時にイメージが沸きにくいのももう少し工夫できないか。

■荒井都市建設部長

本書以外に、分かりやすくイラストを用いたものを作るなど検討したい。

■工藤市長

どこに重点をおき優先して取り組むかを示すなど、軽重が必要ではないか。

■荒井都市建設部長

コンパクトなまちづくりや公共交通の充実が重要という形で記載している。中心市街地の活性化もコンパクトなまちづくりにつながっていく。これらの考え方にともない、具体的な施策が出てくると記載している。

■工藤市長

今さらコンパクトなまちづくりをうたっても遅いのではないか。

■荒井都市建設部長

人口が減少し高齢化が進展するなか、遅すぎるということはない。すぐに結果が出るものではないが、今からでも取り組んでいかなければいけないものだ。

■山本教育長

人の移動手段の確保などは大事な視点だ。

■工藤市長

内容が具体的でなく、漠然としているのではないか。

■荒井都市建設部長

このプランは、まちづくりの方針として作成するものであり、方向性を市民と共有するものである。この方針に基づいて具体を作ってもらうことになる。

■工藤市長

コンパクトなまちづくりという共通認識は既に皆のなかにあるが、具体的に何をやるのか示されたものがないので、検討だけで終わってしまっている。

まち全体をとというのは難しいので、まちが変わっていく様子を市民が実感できるよう、重点地区を定め、目に見える形で進めて行くというような発想が必要ではないか。それに沿って予算づけするなど、選択と集中を進めた方が目に見えるまちづくりが出来る。

■荒井都市建設部長

8月に美しいまちづくり検討会を立ち上げ、そのなかで、どこを重点地区とするのか議論して予算に反映できるようにしていきたい。

■中林副市長

コンパクトなまちづくりをうたっているが、産業道路の外側で宅地化が進んでおり、考え方と現実に乖離がある。西部地区からの人口の流出などをすぐに止めることは出来ないのではないか。

■荒井都市建設部長

現在のプランでは宅地開発が可能であり、既に許可しているものを止めることは出来ないため、一時的には産業道路の外側への人口移動は進むが、将来的には低密度化すると考えている。このため、この地区においては、都市計画道路の見直しなどを進めるが、その一方でこれらの地区の住民の利便性が課題となることから、地域循環バスなど足の確保の対策が必要となる。新プランの策定により、これまでの開発容認のまちづくり方針から方向転換していこうと考えている。

■工藤市長

西部地区は風光明媚で雰囲気もいい場所だが、土地の単位が狭く、今のままでは活用が難しい。複数の区画をまとめるなど工夫することで土地の活用が図られる可能性が出てくる。行政として人が住む方策を考えないと解決しない。

■荒井都市建設部長

景観形成の視点から施策を考えていきたい。この点については改めて相談したい。

このたびのプランは素案なので、この後都市計画審議会に諮ったうえで原案とし、改めて政策会議に諮りたいが、いかがか。

■工藤市長

了解した。素案については、このとおりとする。